



なでしこ☆ わくわく通信

2023年度12月発行 第10号



1枚の紙に皆でお絵かき
どんな世界が出来上がるかな？！

Topics

- ・栄養士さん、お話きかせて！
- ・なでしこ園の楽しい行事
- ・保護者勉強会

児童発達支援センター 済生会なでしこ園

〒861-4112

熊本市南区白藤3丁目2-71

TEL : 096-357-6615

FAX : 096-357-6667

☆支援者として大切にしたいこと☆

児童発達支援センター機能強化事業が主催する支援者研修に参加しました。“支援者に求められる大切なこと”をテーマに改めて学び、また新たな価値観を得ることができた研修でした。さて、『ストレングス・リフレーミング』という言葉を知っていますか？(^_^)

ストレングスの視点とは、病気や障がいそのものに注目するのではなく、その人が本来持っている強さや得意なこと、今まで暮らしてきた中で獲得した様々な技能(日常生活のスキル、興味関心事、コミュニケーション能力など)や、その人を取り巻く環境(家族、地域、社会、制度)の強さに視点を当てること。リフレーミングとは、物事を見る枠組み(フレーム)を変え、違う視点から捉えること。

これは**ポジティブな解釈ができる、相手の考え方を理解する、自己の内面に関する感じ方や出来事の解釈を見直したりすること**等に繋がっていくのです。そうすることで例えば、「すぐに飽きてしまう⇒本当に好きなことがあれば頑張れる」「場所に合わせた服装ができない⇒自分なりのスタイルを持っている」などネガティブな視点のフレームをポジティブな視点のフレームに切り替えられますね。リフレーミングは、支援中だけにとどまらず普段から意識していきたいものです。そうすることで心のゆとりや前向きな気持ちも生まれやすいような気がします！また、なでしこ園の子どもたちのストレングスは何かと考えるとき、もちろん一人一人が異なっていますが思い浮かんでくるものがたくさんあります。この大切な幼児期に関わる周囲の大人(ある意味では環境の一つ)として、一緒にどんな経験をしていけるかを日々の子ども達の姿に合わせながら考えていくことが“支援者に求められる大切なこと”なのかもしれません。それにはやはりご家族とのお子さんの情報共有が不可欠です。“こんなことができた”“こんな風に考えられそう”など沢山の話を交わしながら、時にリフレーミングをしつつ共に考えていきたいものですね(*^^*)

(保育士 松山)

栄養士さん、お話聞かせて！

あっという間に年末が近づいてきました。今年入園した子どもたちも4月の頃に比べると、ごはんをたくさん食べるようになりました。今年のごはんやパン、麺類が好きな子どもたちが多く、おかわりをする姿がとても微笑ましいです。

なでしこ園で管理栄養士として勤めて3年が経ち、食べることが成長期の子どもたちにとっていかに大事であるかを感じています。なでしこ園の給食は子どもが好きな料理だけでなく、これ(魚料理や煮物など)は絶対食べないだろうな…というような料理も入れるようにしています。給食を通して色々な料理があることを経験してもらいたからです。今年度は試食会を行い、保護者に給食を実際に食べていただきました。「家の味は濃いのがわかった」「久しぶりに給食を食べられて嬉しかった」などの感想をいただき、子どもたちが普段食べている給食を身近に感じていただけました。保護者同士で食の悩みについて話し合う場面もあり、食の情報交換ができたのではないのでしょうか。

そして今年度よりランチルームのお部屋ができ、給食をクラス全員で食べるようになりました。お友だちと一緒に食べることで食べる意欲に繋がったり、お誕生日メニューなどの行事食をみんなで楽しんだりと空間を共有しています。給食の準備は子どもたち自身でお皿やおかずを取る形式を行っています。「多いのはどれ？スプーンは一人1本だよ！」など子どもたち自身で確認を取る、自立的な行動を引き出すきっかけになりました。また、子どもたちが好きなクッキングは食への関心をもってもらうために欠かせません。「子どもに積極的にしてもらおう・五感で楽しむ・作ること、食べることを楽しむ」ことを意識して行っています。今年度は麺類が人気なので、焼きそばやナポリタンを子どもたちの目の前でホットプレートを使って一緒に調理しました。ジュ〜ジュ〜と具材が焼ける音と匂いが食欲をそそります。「おなかすいた！早く食べたいよー！」と子どもたちのわくわくした顔がクッキングをしてよかったなあと思う瞬間です。来年もみなさんと一緒にたくさんクッキングをしたいと思います！

(管理栄養士 足立)

なでしこ園の楽しい行事

Let's Go Autumn Party!

毎年恒例となっている「オータムパーティー」を今年も10月28日に開催することが出来ました！
普段とは違うお祭りという雰囲気の中、保護者の方と一緒に活動を経験することを目的とし毎年開催しています。
当日も普段使用しているものを活用しながら子ども達が普段とは違う環境の中でも安心できるように工夫を行っています(*^^*)



職員も色々なキャラクターになりきり、子ども達と一緒に楽しみました！



地域の方のご協力のもとバルーンショーの開催、同施設のパン工房「ふわり」によるパンの販売、早飲みなどのイベントにより当日は大盛り上がりでした！

(保育士 平本)

とびだせ！園外行事！

今回ご紹介の園外行事は、こあらぐーぷとうさぎぐみ合同での公園遊びです。普段の療育時間はズレがあり、一緒に遊ぶことが少ないクラス…関わりが少いお友だちと遊ぶことは、子どもたちにとってどのような経験となるのでしょうか？早速準備して、バスに乗っていざ出発！



道中のバスでは楽しい気持ちを持ちながらもちょっぴりソワソワ…そこで職員が好きな物や最近楽しんでいることの話を広げると「えー！一緒だね！」と会話にどんどん花が咲き、緊張もほぐれた笑顔が見られます🌸到着すると「行こう！」と顔を見合わせて遊び始めていましたよ！クラスを超えた活動は子どもたちにとっても支援者にとっても、新たな発見をする貴重な機会となりますね😊

(児童指導員 山口)

～なでしこ音楽会～

“音楽会があるよ！”という職員の言葉に目をキラキラと輝かせる子どもたち。多くの子どもさんに音楽会の経験はありません。音楽を聴いて音の違いやリズムを楽しんでほしい、音楽を通して沢山の気付きを得てほしい…そんな想いを込めてスタートしました。職員が動物の衣装をし、フルート・クラリネット・太鼓を持ち演奏しながら登場♪子どもたちはビックリしながらも自分の席で楽器の生の音を感じながら手拍子をしたり、一緒に楽器を鳴らして楽しみました♪最後は曲に合わせてみんなでダンス！「音楽会って楽しいね♪」と子どもたちにとっても記憶に残る時間となったようです。安心できる場所であるからこそ、新しいことにも挑戦できますね☆今後も子ども達の豊かな経験を増やしていきたいと思えます！



(保育士 清原)

保護者勉強会

11月14日に「きょうだい児支援」に関する勉強会を開催しました(「きょうだい児」:重い病気や障がいを抱える兄弟姉妹がいる子どものこと)。

今回の勉強会は保護者の方からの要望をきっかけに、「熊本市障がい者相談支援センターじょうなん」の木本様にご協力いただき、兄弟姉妹の中に障がいのあるお子さんを持つお母様と障がい者の兄を持つ当事者の方、それぞれの立場からお話を伺いました。参加者の方は皆、真剣な表情でお話に耳を傾け、グループワークでは悩みや不安、中には悩みを誰かと共有できたことに安堵の涙を流す方もおられました。終了後の感想には「(将来に)不安になり過ぎず周りを頼りたいと思う」「きょうだいはきょうだいなりに考えていることも多く、たくさん思っていることを互いに話したい」など、みなさん前向きになれる機会となったようです。

家族と当事者、立場が違えど共通して感じたことは、きょうだい児支援に間違いはなく、家族それぞれ形があるということ。お二人から紡がれる飾りのない言葉には、紛れのない現実とそのような境遇でなければ得られなかった喜びや出会えなかった人たちとの縁を感じました。今回の保護者勉強会で得た学びとご縁をこれからも繋いでいきたいと思えます。

(主任 重本)



つながりを広げて

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、今年度は様々な活動において外部の方々との交流・連携を拡げているところです。

今年を振り返りますと、五月に力合校区民生委員・児童委員様方を対象とした見学会を実施したり、その後地域向けに地域支援室を開放したり、さらには職員数名が子ども食堂にボランティアとして参加したりしました。

また、十月の園行事「オータムパーティー」では、パン工房「ふわり」(済生会ほほえみ)による販売会や民生委員様・地域の方の御協力による駄菓子屋を開くなど、これまで以上に地域とのかかわりを意識した取組みを展開してきました。

子どもたちの活動におきましても、近くの公園への散策、スーパへの買い物、消防署見学、そして園バスを使つての園外活動等々を行いました。

見通しを持った楽しい活動の中にも、自然・人とのふれあいや社会とのつながりを拡げることを見野に入れての活動は、済生会が目指すソーシャルインクルージョンの理念につながるものと考えますし、子どもたち自身が社会を変えていく力を持つていると信じています。

済生会なでしこ園は、今後も共生社会の実現に向けた取組みを丁寧に進めてまいります。

(園長 五瀬浩)

地域ネットワーク

地域には多くの通所支援事業所があります。各学校区で放課後等デイサービスや児童発達支援という言葉を目にすることが増えているのではないのでしょうか。当園はお子さんと家族をサポートする場所として、また「児童発達支援センター」としての地域ネットワーク構築の役割を担っています。研修会やネットワーク会議などで顔を合わせることが私達支援者側の顔の見える関係づくりの一步となっています。

先日、地域の通所支援事業所の方より新たなご提案を頂きました。なでしこ園のお子さんとの合同療育です。事業所という一つの枠組みを超えて、子ども達にどんな出会いが待っているのか...:子ども同士の感性が重なり何かおもしろいことが起きそうな予感。私達支援者にとっても見えるところが新たに広がりそうです。

子ども達のように枠にとらわれない発想、心惹かれる瞬間に行動を起こすことを今回のご提案から教えていただいたように思います。初回が近づいてきました...:どのようなくども達の輪が出来るのか心待ちにしています。

(機能強化員 山田)

